

「第 19 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 5 年 1 月 30 日（月）14:00～16:00

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	13	加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）
2	今泉 清隆（区体育協会）	14	高橋 美由紀（生涯学習スポーツ課長）
3	橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）	15	神崎 章（新宿未来創造財団等担当課長）
4	金子 和子（区レクリエーション協会）	16	稲川 訓子（障害者福祉課長）
5	田中 稔（区町会連合会）	17	袴田 雅夫（地域包括ケア推進課長）
6	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	18	徳永 創（子ども家庭課長）
7	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	19	向 隆志（健康政策課長）
8	大嶋 英二（区青少年育成委員会）	20	小谷 武彦（みどり公園課長）
9	武内 隆則（区小学校 PTA 連合会）	21	齊藤 正之（教育調整課長）
10	石原 留理（区中学校 PTA 協議会）		
11	藤原 千里（公募委員）		
12	小柳 智史（スポーツ関連事業者）		

欠席者 2名

関口 美緒（公募委員）

加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）

机上配付

資料 1 スポーツ環境会議委員名簿

資料 2 DIVERCITY PARK 2022 報告書（みどり公園課）

資料 3 留学生のスポーツ意識調査（公募委員：関口委員）

資料 4 新宿区スポーツ環境整備方針の改定とスポーツ環境調査の実施について（生涯学習スポーツ課）

当日資料 ボッチャ新宿小学生カップ プレ大会（スポーツ推進委員協議会）

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

（1）開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。昨日、新宿シティハーフマラソン区民健康マラソンが開催された。多くの皆様に、新宿の街を走っていただき、神楽坂の方までコースが伸びたことも楽しかったという声もいただいている。またボランティアで参加していただいた方もいらっしゃると思う。本日、「新宿区スポーツ環境整備方針」の改定について議題として挙げているが、本方針の中にも、スポーツとは体動かして楽しむ活動であると記載されており、競技スポーツのみならず、皆様の健康増進につながるような活動についても、検討していきたいと思っている。皆様からの忌憚のないご意見などを伺いながら進めていきたい。

(3) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

個人的には、昨日のハーフマラソンでは、元気に皆さんのお手伝いすることができた。体育協会としてはスポーツ施設が使えるようになり、体育協会の連盟や協会においては、以前と同じような形で活動できるようになっているが、コロナによる自粛期間により、体が硬くなっている方が多いのではないかという意見が結構出ている。また、私個人としても、スポーツは競技だけとは考えていない。体育協会としては、国民体育大会があるので競技は当然大事であるが、競技をしない人でも、区民が一人でも多く、体を動かしてスポーツができるよう、体育協会としてはアピールしたいと考えている。

・区スポーツ推進委員協議会

前回からの活動としては、コミュニティスポーツ大会が、全地区の参加ではなかったものの、多くの方に参加いただき開催ができた。この3年間、なかなか他地区との関わりがなかった中で、今回地区大会から、笑顔が絶えない大会になった。またチャレスポ等、地域での活動も徐々に実施できるようになってきた。しかし、コロナが収束していない中、活動をアピールしてはいるものの、活動を知らない方や、まだ外での活動に抵抗がある方もいる。感染対策をしていることなどを説明し、地道に声掛けをしたり、横のつながりを通じて、少しずつ参加者も増えてきている状況である。

本日配布した資料であるが、スポーツ推進委員会の自主事業として、新宿区とレガスの方と協力し、3月にプレ大会という形で、小学生対象のボッチャ大会を計画している。スポーツ推進委員が、審判・進行を含めて実施する。我々も初めての試みであるが、皆さんが楽しめるように、かつ競技性の高いものをやってみたいと思っている。2月20日まで募集かけており、上限20チームまでとしている。興味があれば皆様に是非ご参加いただきたい。

・区町会連合会

町会連合会としては、昨日のハーフマラソンにおいて、交通規制について、掲示板・回覧により、周知を行った。またボランティアの募集について、各町会に声掛けするなど活動をしている。また今お話に出たコミュニティスポーツ大会の特に中央大会では、3年ぶりの開催で、参加者同士が久々に顔を合わせたことに喜ぶ会話が所々で聞くことができ、こういうところがスポーツの良いところだなと思っている。町会連合会は全地区が揃っているので、コミュニティスポーツ大会のように、どこでも気軽に誰

でも参加できるようなスポーツ大会であるとか、そういったことの整備や話し合いについても、何かご相談があれば、後押しや応援をさせていただければと思っている。

・区高齢者クラブ連合会

昨年度は、グラウンドゴルフと輪投げを実施し、本年度も、5月・10月・12月、グラウンドゴルフを2回、輪投げ1回を実施し、参加者も非常に多かった。コロナ前までグラウンドゴルフは、1チーム6名でやっていたが、コロナにより1チーム5名とし、人数制限をして実施していた。次回10月の会長会では人数制限を外し、コロナ前の6名編成にするように提案したいと思っている。コロナ感染防止対策についても徹底して行っていたが、今後はあまり無理をせずに、手袋やマスクの着用なども緩和して実施ができればと考えている。このようなことを提案し、賛成が得られれば、だんだん元に戻したいと思っている。

・区障害者団体連絡協議会

障害者団体では、今月に新宿を本拠地としているクリアソン新宿の皆さま方や、首都医校の学生さんなどと一緒に、新宿区障害者福祉センターでボッチャ大会を行った。全部で50名強の方々が参加し、本会議の座長金子委員もご参加いただいた。徐々にこういう形で体を動かすことができるような環境になってきており、周りの意識も変わってきていると感じる。また、昨日開催された新宿シティハーフマラソンにも、障害がある方々が参加されており、個人でも少しずつであるが、そういう場に足を運ぶということが戻ってきていることは、すごく喜ばしいことだと思う。今後も是非、障害の有る無しに関係なく出ていけるような環境を少しでも作っていけるようにしたい。

・区青少年育成委員会

青少年育成委員会では、スポーツに特化して何かをしているということはないが、徐々に各地区でいろいろな活動が再開している。学校側との兼ね合いもあり、何かを開催するのも人数制限を念頭に置いて物事を進めている状況であるが、これも今後徐々に変わっていくと思う。私個人としては、落合第一地区で、年始に野球場を使い、凧作り、凧揚げを行った。凧揚げでは、親子でいろんな方が参加されて、徐々に大人数で、すごく盛り上がったイベントができた。これからの活動については、やはり学校の取り組みとの兼ね合いを見ながら、いろいろなことが進んでいくと思っている。いずれにしても、子どもたちは、コロナでマスク生活がずっと続いているので、そういった制限が徐々になくなっていくと良いと思う。

・小学校PTA連合会

小学校PTA連合会では、前回会議以降、11月19日・20日にバレーボール大会を開催、また1月15日に卓球大会を開催し、それぞれ15校が集まった。両大会とも、各連盟の方に全面的にご協力をいただき、開催することができた。なお今回は、新たな試みとして、OB・OGチームも参加した。小P連の活動としては、3年ぶりに例年通りに開催することができた。ご協力に感謝している。

・中学校 PTA 協議会

中学校 PTA 協議会では、前回の会議の終了後、コロナ禍において中学生の子どもたちが心身共に成長していくには、スポーツの充実が重要課題だと認識した。そこで会議終了後に行われた理事会において、区立中学校全 11 校に向け、今の子どもたちのスポーツ環境についてのアンケートを行うことが決定し、年末から年明けにかけて実施した。全校からの回答によると、ほとんどの学校ではコロナ前の状況に戻りつつあるということ。また、他校との練習試合や、新人戦などの大会は、感染対策を行ないつつ開催しており、一部の学校を除いて問題ないということであった。短期間でのアンケートであったため、内容に戸惑われた方もいたが、一部の学校から提案された共通の課題や個別の学校の課題を重点的に検討し、学校へのフィードバックも含めて、これから継続的にやって行きたいと思っている。

まず課題として取り上げたいものを 4 点ご紹介する。一つ目は、一部の学校において、顧問の先生の負担が大きいという意見が 4 校あった。二つ目は、技術指導の限界があるという意見が 4 校。やはり顧問の先生によっては、指導のための経験値が大きな問題ということ。三つ目は、男子更衣室等の環境が整われていないという意見が 1 校。四つ目は、練習試合が全く組めていない理由として、先生の負担がとて大きいという意見が 1 校あった。

続いて、学校および顧問の先生がうまくリードしている学校の例も挙げた。従来は一日の中になんり詰め込んで練習試合や大会を開催していたのが、開催日数を逆に増やし、午前だけ午後だけという開催にするなど、人数を分散し効率よく実施をしている学校が 2 校あった。練習試合についても、近隣の中学校や他区のコートを利用して工夫して行っている学校が 1 校。また、学校授業での記録会や部活内での部内戦を定期的に行うことで、技術的な成長やモチベーションが高まった子どもが多いという学校が 1 校あった。

今後の中 P 協としての進め方としては、まず課題として取り上げた中から優先順位が高かったのが、顧問の先生の負担について、そして技術的な限界についての意見であるが、来年度から外部指導員がさらに進められるということから、状況を見守っていきたいと思っている。ただし、今回の調査によって外部指導員の適性に課題があった事案が挙がり、改善に進んだ例もあった。また現在、部活動指導員や地域から派遣された外部指導員がいるが、派遣元での契約の取り交わしの有無や、契約内容にもそれぞれ差異があるため、派遣元での動機付けが必要であると考えている。またコロナ禍で、練習試合をはじめとする他校との交流ができていない学校も一部あった。他校との交流を通す事で、他の同級生達の成長や自分の実力を知る経験になるため、とても大事である。これは、運動部以外の文化部や生徒会などでも共通している課題である。

最後に、中体連のあり方についても意見が挙げた。前回会議においても関連するお話をされていたので、間野先生に伺いたい。中体連主催の大会は、全国大会のための運営となっており、子どもたちは一生懸命頑張っても、第一試合で出場して負けてしまった場合は終了してしまう。またコロナ禍のため、人数制限や、拍手を含めた応援の禁止もされている。声援も拍手もなく、ただ突っ立って見ているだけしかないことにジレンマを感じるという意見も多くあった。このあたりも見直していただきたい。また、区大会がない部活の救済について、他校との交流の意義やあり方も課題に思っている。

今後、中 P 協としては、様々な課題や問題の解決に向けて、意見を出し合いながら、引き続き継続的に取り組みを見守っていきたいと考えている。是非、皆様から何かあればご意見をいただきたい。

・スポーツ関係事業者

昨年 11 月より、新宿スポーツセンターでは、空調の改修工事に伴い、部分的に利用を制限しており、皆様にご迷惑をおかけしている。再開後にはまた皆様に安心安全にご利用いただけるように準備している。

・公募委員 藤原委員

医療行為の必要な障害の重い子どもたちも、積極的に参加できるような活動内容が増えてきた。徳堂委員からご紹介いただいた、クリアソン新宿さんとのボッチャ大会にも多くの障害の重い子ども達が参加でき、無事に安全に活動ができた。プロの選手と一緒に競技をすることが、初めての子どもたちもいたため、かなり盛り上がりもあった。また職員さんたちも一緒に楽しんでおり、皆さんで共有して活動を楽しめたと思う。

個人的なお話では、昨日の新宿シティハーフマラソンにおいて、ファンランという競技に、車椅子の娘と参加をさせていただいた。第 7 回大会から毎年参加をさせていただいているが、今年は驚くほど、車椅子の娘がスムーズに参加ができた。以前は申し込みから当日のゼッケンの配布や、介助者のゼッケンの配布についても、車いすでの参加がイレギュラーであったため、申し込む前からお電話で、車椅子の参加のことや、介助者の人数などをご説明をしていた。さらに、事前に担当の方からスタートの位置などのご連絡をいただいたり、いろいろと制約がありながらも毎年継続してきた。今回は 3 年ぶりの開催であったが、ネットでの申し込みの段階から、介助者の必要有無について、すでに欄ができており、備考欄では介助者の他に、伴走者の人数などを入力することができ、いままでのアナログな対応をせず、当日のゼッケンの配布から許可証の配布まで、ネットの申し込みだけで、最後まで娘と私は何も苦勞なく、楽しむことができた。こういったイレギュラーないろいろな配慮が必要な方々でも、健常の方と同じように参加ができ、楽しんで帰ることができる大会が、今後もっと増えてくれると良いと思った。

・区レクリエーション協会

新宿区レクリエーション協会では、前回会議の後、11 月 12 日に新宿コズミックスポーツセンターでレクリエーションフォーラムを開催した。今年は第 8 回開催であったが、障害のある人ない人がお互いを理解するための講習会のような内容で行われた。まず知的障害の手をつなぐ親の会の方から、ダウン症や自閉症の子のそれぞれの感じ方について、疑似体験させていただいた。その中で、今年は 2 名の障害当事者の方から発表をいただいた。一人は、絵や書で作品を作っている方で、当日作品を見せていただいた。色使いなどが本当に素晴らしく、本人の努力もあるが、その環境を作ってあげた保護者の努力も大きいとすごく感じた。その方の作品は先日まで、新宿スポーツセンターの 1 階のホールで展示されており、作品を見た方の感想も多数書かれていた。もう一人の方はダウン症の方で、現在は就労されているのだが、障害を持った親としての感じたことを、生まれてから今に至るまでの話をしてくださった。とても楽しく親子でやっていたというお話であった。当事者の方からお話を聞くことで、身近に感じられてよい経験であった。このフォーラムの中で、藤原委員が重症の障がいを持つお子様の話や自身の NPO 活動について、オンラインにより講演をして頂いた。

このフォーラムからの繋がりでも、先ほど徳堂委員からお話が出た、障害者福祉センターのボッチャ大会にご指名いただき、緩いルールでのボッチャ審判をさせていただいた。人数が多かったが、参加者が

楽しそうに笑って帰っていく姿をみて、楽しんでもらえたと思う。

12月1日・2日は新宿区の地域包括ケア推進課高齢いきがい係から受託している、いきいきハイキングという、高齢者の方のハイキングを新宿レクリエーション協会とウォーキング協会とで、お手伝いをさせていただいた。例年はバスで遠くへ行くが、コロナ禍のため、今年はバスを使わず区内を歩いたが、例年の半分ぐらいの参加人数であった。来年はバスなしでも行けるところをさらに精査して、参加人数を増やして行きたいと考えている。

1月22日、2月5日には、東京都の事業で、都立の支援学校活用促進事業を支援している。北区にある肢体不自由の方のための北特別支援学校をお借りして、レクリエーションスポーツ教室を2回実施する。今年は、レクリエーションのボッチャやラダーゲッター、いろいろなクラフトを利用したものだけではなく、太極柔力球というニュースポーツも行った。お互い交流しながら、障害のある方もない方も参加していただき、ボランティアの方も一緒に参加するような形で賑やかにできた。様々な種目をやると楽しいが、やはりボッチャは根強い人気があり、車椅子で参加された方もランプを使用してボッチャに参加されており、とてもご機嫌であった。障害がある方も一緒に参加ができる種目だと実感し、私たちもさらに研究していきたいと思っている。

・公募委員 関口委員（欠席のため資料説明：生涯学習スポーツ課長）

お配りしている「留学生のスポーツ意識調査」資料について、簡単にご説明する。関口委員が教鞭をとられている大学の留学生の方にアンケート調査を実施した結果とそのまとめを作成いただいた。自国でスポーツ経験があるという方が非常に多く、日本での経験という点では、実際にスポーツをしている方は多く、スポーツをする場としては大学の授業や部活でのスポーツ経験がほとんどであった。全体的なまとめとして、留学生にとって大学の授業が日本でスポーツをするきっかけとなるということ。その後、部活として継続する方もいるが、そうでない方もいる。こういった留学生の方たちが、気軽に日本でスポーツに参加できる機会が作れると良い。

新宿区も、留学生も含めて外国人の多い地域のため、そういった多文化共生の視点から、スポーツの参加機会を今後作っていくことも課題であると、この報告を見て感じた。

・学識経験者コメント

先ほどの中学校の部活動に対するご質問について、現状の情報をお伝えする。全国中学校体育連盟は、現在、スポーツ庁が所管している。文部科学省、スポーツ庁、全中連との話し合いの結果、短中期的に全国大会を廃止する方向で検討が進められている。石原委員がおっしゃったとおり、全国大会という制約のために、その予選が全部トーナメント方式のため、3年間頑張っても一回負けたら終わってしまう。負けたチームは切なさや空しさばかりが残り、場合によっては、これによりスポーツをやめてしまう人も多い。昭和の時代は、こういう方法が流行っていたが、現在の少子化、そしてポストコロナのことを考えた場合に、本当にそれが子どもたちのスポーツ環境として適切なのか、ようやく議論が始まっている。学校の部活動に関しても、学校の先生が放課後ボランティアで見るということが当然になっていたが、働き方改革の中で、過労死ラインを越えるほど残業している先生がいる。この現状が、先生自身も、ご家族も非常にご苦勞があるだけではなく、若い人たちからブラックな職場だと見られることで、教員の応募者が激減しており、それにより教員の質が下がってくる可能性があり、結果として日本がこれま

で進めてきた学校教育の質が担保できなくなる、ということから、文科省も部活動は学校教員の仕事ではなく、地域や民間事業に任せる、いわゆる部活動の地域移行という言葉が最近出始めた。

本日議題の「スポーツ環境整備方針」の改定にもつながってくると思うが、私としては新宿は新宿のやり方で全国大会を目指すわけではなく、中学生や子どもたちが日常的に、スポーツの試合をもっと気軽にできるような仕組みを作ればよいと思う。やはりスポーツは、試合が一番楽しい。なのに、日本人は練習ばかりする。アメリカでは普通に平日にナイトゲームをしている。日本では、試合は土日に行い、平日は練習と思い込んでいる。また、無駄に補欠が多すぎるのも問題。立って応援するだけで声出し禁止、拍手も禁止というのは、単なる苦役だと思う。自由主義が一番進んでいるアメリカでさえ、補欠は作らず、部活を定員制にしている。トライアウトをして、野球部なら 20 人と決めたら 21 番目の人は野球部に入れない。野球をやりたい子どもが可哀想ではないかという議論がある一方で、その 21 番目の子は多分補欠だから試合に出られない。それで 3 年間頑張って、彼の時間とか人生とか才能が無駄なのではないかというのが、アメリカ人的な発想。好きなことだけをやらせることが日本では良いと考えられていて、例えば甲子園のアルプススタンドで 3 年生になってもベンチにも入れずにメガホンを持っている子を美談と言われる。しかし、彼がもし他のことやったら、もっと才能を見出したかもしれない。それがスポーツ以外の、音楽でも文学でも絵画でもなんでも。こういった面を、本人のやりたいという気持ちと、私立学校の学校経営のための生徒集めにより、今まで野放しにしてきた。日本では少子化が進み、そして世界と競争していかなくてはいけない時代のなかで、昭和のモデルをいくら当てはめても、彼らは幸せになれない。これはスポーツに限らず、文化部や科学部も含めて、これを変えていこうと文部省もスポーツ庁も動き出し始めた。私はこの政府の部活動改革に関する会議の座長もしているが、結局受け皿をどうするかという問題がある。特に地方都市など人口が少ない地域は、その地域で、または民間で、と言っても受け皿がない。新宿区は幸いにいろいろな受け皿があると思う。先ほどのクリアソン新宿さんも含めて、いろんな団体もあるし、指定管理者もいる。なので、部活動は学校の先生の仕事ということではなく、むしろ PTA の皆さんが中心になって、学校対抗戦を自分たちで考えていくなどしてもいいと思う。全中連に入っている限りは一競技にしか登録できないが、新宿区 PTA で自分たちでルールを決めれば、例えば、春はサッカーで、冬はスキーをやる。春は野球で、夏は水泳をやるなど、一人でいろいろなことができる。スポーツに限らず、サッカーをやりながら、バンドを組んで音楽をやっても良い。そういった、新宿の子どもたちが豊かで幸せになっていくようなやり方を、この全国大会が廃止される大きな動きの中で考えていくきっかけになると思う。またさらに、新宿区は 10%以上が外国人の方だとお聞きしたので、そういう方々と本当の意味でダイバーシティを作っていくことができる。そんなスポーツ環境が作れる、むしろ数少ない条件に恵まれた自治体ではないかと思う。

イ 行政からの報告

・みどり公園課長

昨年の 10 月 1 日・2 日に、区立新宿中央公園で開催した「DIVERCITY PARK 2022」について簡単にご報告する。本イベントは、公園の指定管理者である新宿中央公園パークアップ共同体が実施した。障害の有無や性別、人種、文化など、より多くの個性や価値観がある中で、障害者スポーツを始め、子どもから大人まで、誰でもチャレンジができる、多種多様なスポーツ体験ができるブースを 40 近く設置した。本イベントでの体験を通じてお互いの個性を認めたり、交じり合うような場になることを目的に開

催された。資料のスライド8のページに写真があるとおり、人工の雪を運び、雪上スキー体験や、車いすバスケットボール、車いすテニス、ボッチャ、ブラインドサッカー、ストライダーなどの体験や、「じゃぶじゃぶ池」という、夏場に子どもたちの水遊び場としているエリアでは、ここを使ってユニバーサルカヌーなど、普段の公園では体験できないスポーツにチャレンジしていただくようなイベントであった。またこのイベントのスタッフは、外国の方にもご参加いただき、日本語以外での言語の対応をした。2日間の開催で約3万人ご来場いただき、来年度も開催を予定している。みどり公園課としても、こうしたイベントを通じて、区内のスポーツ環境の増進に少しでも寄与できればと考えている。

・新宿未来創造財団等担当課長

昨日の新宿シティハーフマラソンは、皆さんにご協力いただき、無事に終わることができた。参加者の人数などはまだ出せていないが、非常にたくさんの方に参加していただき、事故なく安全に大会を運営することができ一安心している。また来年に向けて、今回の経験を生かしてさらに充実した大会になるように、皆様方からのご意見もいただきながら進めていきたい。

（４）スポーツ環境整備方針の改定とスポーツ環境調査の実施について

・事務局より資料説明概要

新宿区スポーツ環境整備方針（平成25年2月）を策定してから10年が経過した。この間、深刻な少子・高齢化や働き方・生活様式等のライフスタイルの変化、DXなど急速な技術革新の進展など、様々な社会環境や価値観の変化により、区のスポーツ環境も大きく変わっている。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、その大会でレガシーの継承や共生社会の実現に向けたパラスポーツの推進など、これからの時代に即したスポーツ施策を実施するため「新宿区スポーツ環境整備方針」を改定する。令和6年度の「新宿区スポーツ環境整備方針」の改定に向け、令和5年度に区民のスポーツに対する意識やスポーツの実施状況、施設のニーズなどを把握するため、「新宿区スポーツ環境調査」を実施する。

【進め方】

令和5年度 スポーツ環境調査の実施・・・合計15,000標本を予定
調査項目 ①スポーツ意識調査（対象：個人 /約10,000標本）
②スポーツ団体調査（対象：団体 /約2,000標本）
③施設利用者ニーズ調査（対象：施設利用者 /約3,000標本）

令和6年度 新宿区スポーツ環境整備方針の改定

【スケジュール】

令和5年度 4月 庁内検討会議
4月下旬 スポーツ環境会議・・・方針改定事前説明
5月 スポーツ環境会議・・・調査項目の検討
10月～ スポーツ環境調査実施・集計・分析

	1月	庁内検討会議	
	1月	スポーツ環境会議	・・・調査結果・骨子案報告
令和6年度	4月	庁内検討会議	
	5月	スポーツ環境会議	・・・骨子案・素案検討・スケジュール説明
	8月	庁内検討会議	
	9月	スポーツ環境会議	・・・素案協議
	11月	パブリックコメントの実施	
	1月	庁内検討会議	
	1月	スポーツ環境会議	・・・方針案説明

・生涯学習スポーツ課長

「新宿区スポーツ環境調査」「新宿区スポーツ環境整備方針」各概要版を本日配布している。来年度の調査に向けて、前回どういった内容が主な項目として調査が行われたのか、内容を見ていただきたい。来年度初回のスポーツ環境会議の中で、この調査をどういったものにしていくのか、こういった視点が必要ではないか、課題などご意見をいただき、調査項目の検討をしていく形になる。一年間で骨子案まで作成というタイトなスケジュールであり、大変時間のない中で恐縮であるが、次年度の委員が交代となる団体に関しては、次の方に引き継いでいただきたい。ご質問があれば、生涯学習スポーツ課にお問い合わせしてほしい。

・学識経験者

新宿区スポーツ環境整備方針では、「方針」と言いつつ、政策の展開として何をやるということが書かれている。この10年間で各政策がどこまで達成できたのかということ私たち自身が点検する必要があるのではないか。例えば、「基本政策1. 多様な利用者に配慮した施設の機能充実」「ア：総合運動場の整備検討」については、対象が「区民」と「区」になっている。実際に、区としてその整備がどこまで進んでいるのかの点検をする。「イ：気軽にスポーツを楽しめる都市環境の整備」については、対象が「区民」「事業者」「区」にすべて○がついている。これも達成できたのか。第三者に委託するほどではないと思うが、対象が「区」となっている項目は、行政の事務局の皆さんに、実際どれぐらい実現できたのか、A・B・C・Dでも、○・△・×でも達成度を振り返るべきではないか。この先、新しい整備方針を作る時にどの項目は継承するか、達成した項目はもっと違う新しい項目を検討するなど、項目の整備や仕分けに使うことができればと思う。また、「事業者等」に○がついている項目に関しては、各団体の皆さんが当事者であるところも含められると思う。例えば、高齢者がスポーツを楽しめる場～、障害者がスポーツを楽しめる場～、という項目については、それぞれの立場で、団体の視点から、当事者として自己点検評価をしていただくことで、今後の整備方針改定につなげていく。こういう作業をしたほうが良いのではないかと思う。計画ではなく方針なので、強制力もなく、達成できなかったからダメだということではないが、できなかったことに対して、やる必要があるのになぜできなかったのかということをもみんなで考えてみる。そういう振り返りをしたうえで、新しい時代に合わせた整備方針の骨子を検討した方がいいと思う。調査項目を作ってからではなく、仮説を証明するために必要なデータをとる。そ

うでないと、おそらく調査項目が横に広がってしまうと思われるため、ある程度絞り込んで作業を少しずつ進めることで、骨子が見えてくるのではないかと考える。

・区スポーツ推進委員協議会

スポーツ環境整備方針の改定について、間野委員がおっしゃるとおり過去データの振り返りは大事であると思う。それにあたり、振り返りのデータや確認のための資料を、紙でもデータでもよいので、一旦読まさせていただきたい。また、関連する国や都の考え方、例えば第三期スポーツ基本計画などでは、オリパラ後の方針なども入っているが、それらを踏まえた新宿区としての方針に関する情報を事前に持っておきたい。4月の会議の前に事前に頂ければ、話が進みやすいかと思うので、事務局の方をお願いしたい。

・事務局

できるだけ事前にご用意したいと考えている。

(5) その他

【中学校 PTA 協議会】

中学校の試合について、先ほど間野委員もおっしゃっていたが、いろいろな場所で、土日だけに限らず、平日でも、もっと気軽に子どもたちが試合ができる場面が増えてほしいと思う。また、トップレベルの選手に触れられる機会などが増えるとよい。昭和の今までであったやり方ではなく、実際に部活動改革も始まりますし、私たち保護者もいろんな意味で前向きに取り組んでいきたい。ぜひとも前向きに改善して行くこと期待している。

【学識経験者】

来月から、国のスポーツ基本計画よりも更に上位の計画として位置づけられる、「スポーツ未来開拓会議」という、経済産業省と、スポーツ庁で立ち上がり、私は座長として出席している。これは首相官邸と直結しており、そこで出した内容がこの1年、2年の国の政策の指針になるもの。そこでの一番の課題は部活動改革である。今、具体的にPTAの方たちに、いろいろな話を聞いているが、全国大会があると全国大会、関東大会、都大会への出場が高校の推薦入試に役立ったり、内申書に部活を頑張ったことを記載してもらえる。また友達作りのために部活に入る。という部活のプラス面に対し、その部活を改革していろいろなスポーツできるようになるのは良いが、入試も含めてどうなっていくのか、親御さんたちは相当心配されている。

【中学校 PTA 協議会】

現実的に、今は部活やってるから推薦に役立つということはない。あったとしても英検で二級、準二級を持っているくらいで一点あるかないかだと思う。今はそのような子どもたちのスタイルでは無く、とても自由に過ごしている。

【学識経験者】

新宿区の PTA の方々がそういった情報をお持ちで先進的ならば、国が言ったからどうするというのではなく、新宿モデルとして PTA の皆さんが中心になって考えていただければ、学校や教育委員会も動きやすい。

【中学校 PTA 協議会】

今回のアンケートでは、保護者よりも子どもたちの方がとてもしっかりと未来を見据えて、こういう部活動をやりたい、というビジョンを持っていた。そういう子たちがどんどん伸びていくには、やはり部活というのは自分を表現できる場として、とても豊かな資源になると思う。

【学識経験者】

来年度の調査で中学生のインタビューを入れるのも良いかもしれない。いつも大人が、きっと子どもたちはこうだろうと勝手に考えているが、子どもは逞しいし、賢い。スポーツ未来開拓会議で話されているのは、大人が子どもにスポーツを教えずにはいけないのだろうか、ということ。今は YouTube などの動画で、映像を撮ってデータをあげれば、後で分析することもできる。大人がいなくてはいけないと思いついでいるのではないか。

【中学校 PTA 協議会】

娘が、高校一年生でチアダンをやっているが、もう先生たちに頼らずに子どもたちが分析して、そのデータをあげて、それを見てやる時代になっている。大人はその場を整えるだけである。これからグローバルに生きる時代の中で、自由な発想は大事である。新宿区は多国籍で、とても豊かな良い環境にある。

【学識経験者】

競技力向上には指導者が必要だという人もまだ見られる。ただ、東京 2020 オリンピックのスケートボードでメダル獲った西矢椛選手たちは、指導者はいない。自分たちお互いで動画を撮りあって、YouTube を見て映像分析して、金メダルまで獲っている。マンツーマンで大人が教え込まなくてはいけないという発想は変えてもよいかもしれない。

【区体育協会】

中学生の部活の顧問について、体育協会でもできないかということを検討した。本来であれば、体育協会がもっと積極的に中学校や小学校に行って、指導者になることができればよいが、実際にその時間に行って指導ができる人が皆無に近かった。または、区から出る報酬が合わないなどの意見もあった。バレーボールなど、競技によっては全員区民で集めることができず、区民大会ができないほど深刻な競技もある。そのような状況で体育協会は難しかった。他のスポーツでもそうだが、私がやっている breakdance でも指導者はいない。2 年程前にブエノスアイレスで世界大会があり応援に行った際も、日本の中学生、高校生が優勝したのだが、指導者はいない。breakdance は次回のパリオリンピックでも競技に入ってくる。新しいスポーツは指導者がいなくても、本人たちがしっかりしている。今年開催され

る breakdance の大会には NHK が後援で入るほどである。スポーツは若い人たちが自主的にやって、我々はそのアドバイスの的なことができればいいのと思う。

(6) 閉会

事務局から連絡

今回のスポーツ会議は4月下旬に実施予定。詳細は令和5年度の委員の方に決まり次第ご連絡する。